

研究テーマ：グローバル人材を育む国際理解教育

I 東京都海外子女教育・グローバル教育研究会について

- ◇本会は、在外教育施設への長期派遣研修経験の教員が中心に組織する。
- ◇本会は、東京都の国際理解教育、帰国幼児・児童・生徒の教育、在外の幼児・児童生徒の教育の充実・発展を願い教育研究活動を次の(1)から(5)までを通して推進することを目的とする。
 - (1) 在外教育施設から帰国した教員の歓迎会
 - (2) 在外教育施設へ派遣を希望する教員への研修会
 - (3) 在外教育施設での活動報告
 - (4) 在外教育施設へ赴任する教員の壮行会
 - (5) 東京都のグローバル教育を牽引する研究活動

II 主な活動内容

- ◇国内外の国際理解(現地理解)の実態を明らかにするとともに、東京都の「海外帰国子女教育」「国際理解教育・グローバル教育」「外国人児童・生徒教育」の充実を図る。

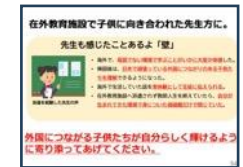
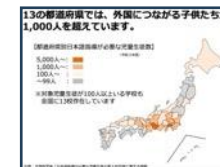
【研修内容】

- 4月 役員研修会、総会準備、研修会企画
- 5月 総会、講演会、派遣希望者相談会、学習会
講師：文科省 総合教育政策局国際教育課 海外子女教育専門官 川上 恵子 先生
- 6月 在外教育施設派遣教員帰国歓迎会並びに在外教育派遣研修会
(帰国者と研修参加者との実践事例研修会・役員研修会)
- 7月 役員研修会、帰国報告会企画 等
在外教育施設派遣研修会、学習(面接練習)会
- 9月 在外教育施設長期派遣研修帰国報告会(1)、役員研修会
講師：東京都教職員研修センター研修部 教育開発課指導主事 野崎 篤子 先生
報告者：町田市立大蔵小学校 門野 幸一 先生 クアラルンプール日本人学校
江東区元加賀小学校 大平 太悟 先生 シンガポール日本人学校 チャンギ校
- 10月 在外教育施設長期派遣研修帰国報告会(2)、関東ブロック大会報告
報告者：世田谷区立桜町小学校 椎木 彩子 先生 シカゴ日本人学校
府中市立府中第七中学校 渡辺 泰生 先生 パナマ日本人学校
- 11月 公開授業
講師：東京学芸大学教育学部 教育学部 教授 川崎 誠司 先生
授業者：小平市立小平第五小学校 主幹教諭 堀 裕樹 先生
- 1月 役員研修会、派遣研修会企画
- 2月 役員研修会、来年度在外教育施設派遣者研修会
- 3月 役員研修会、総会資料検討



III 在外教育施設の現状と課題～講演会から～

◇在外教育施設の現状と課題 文部科学省 総合教育政策局 国際教育課 海外子女教育専門官 川上 恵子 先生



令和4年6月に「在外教育施設における教育の振興に関する法律」が公布・施行され、その目的として「次代の社会を担い、国際社会で活躍することができる豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成、国際相互理解の増進に寄与する」ことが明記された。在外教育施設への派遣教員には、帰国後の効果として、「多文化・多言語の指導力」「カリキュラムマネジメント能力」「学校の管理・運営能力」等の向上が現われている、という調査結果を文部科学省は発出している。国内に日本語指導が必要な児童生徒が増加(いわゆる「内なる国際化」)し、在外教育施設派遣を経験した教員からは「母語でない環境で学ぶこと・生活することの大変さを感じた」「帰国後は、日本で頑張っている外国につながるのある子供を理解できるようになった」という声もある。このように、派遣された教員には、子供たちに寄り添う指導の中心的存在になることが期待されている。(講演資料より一部抜粋)

IV 在外教育施設長期派遣研修帰国報告会から

◇MAKMur プロジェクトの推進 町田市立大蔵小学校 門野 幸一 先生 クアラルンプール日本人学校



赴任2・3年目にマレーシア MAKMur プロジェクトの一環で、自身の学級会の授業を現地教育省や現地校長先生に参観してもらった。マレーシア教育省・JICA・AsiaSEED から要請を受け、赴任3年目の10月にオンラインにて全マレーシアの校長向けに話し合い活動についての発表の機会をいただいた。(後日、教育省から感謝状をいただく。)

さらに、帰国後4月に算数科の授業で自身の日本での取り組みをマレーシア現地の管理職・指導主事にオンラインにて発表した。8月には現地に再度、来馬し、AsiaSEED 上野さんと通訳とともにローカールール5校を訪問し、算数や理科の授業、掃除活動や読書活動を観察して、助言をするという大役をいただいた。日本の教育的課題の一つは、単一民族国家ゆえの他言語との関わりの低さだと思う。今回のマレーシアでの学びを日本の児童に伝え、彼らの視点が国内だけでなく、世界にも向かうよう、支援していきたい。(発表原稿より一部抜粋)

【令和6年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都海外子女教育・グローバル教育研究会】

◇ 教材化する力は日本にいるうちに身に付けておくこと

江東区元加賀小学校 大平 太悟 先生 シンガポール日本人学校チャンギ校

在外教育施設に派遣されるならば、現地のことを「知る」。それらを「教材化」するための、教材親と指導親は身に付けておきたい。「教材化」するには、次の3つが必要である。

- ① 教材化するための「教師の目」を育てる。
- ② 大局を見ながら比較する。
- ③ 厳選した資料を児童に提示して主体的な活動に結びつける。

東京に住む子供にとっては、そこが生活の全てである。同じように派遣先の在外教育施設の子供も、そこが全てである。「教材を学ぶ」から「教材で学ぶ」という視点に切り替えて日々の授業を作ることを心がけておきたい。さらには、派遣先の国民から情報収集するためのコミュニケーション能力も身に付けておきたい。それは決して言語力だけの話ではない。(発表原稿より一部抜粋)



◇ シカゴ日本人学校における教育環境と派遣者に求められる能力

世田谷区立桜町小学校 椎木 彩子 先生 シカゴ日本人学校

アメリカでの生活や教育活動は学ぶべきところが多かったが、苦労した点も多かった。以下の派遣者に求められる能力を踏まえ、これから在外教育施設での勤務を目指す方々に少しでも私の経験が生かされることを願う。

- ・日本人学校に志望した動機を忘れずに、初志貫徹の心をもつこと
- ・高い授業力や事務処理能力はもちろん、管理職と共に学校を運営していく能力
- ・他地域から集まっている教員と共に仕事をしていく協調性
- ・帰国後に派遣で経験したことを国際理解教育に生かそうとする力
- ・高い危機管理能力
- ・心身ともに健康であること (発表原稿より一部抜粋)

◇ 「パナマ共和国 (中南米) の特色を生かした教育活動の実践」

府中市立府中第七中学校 渡辺 泰生 先生 パナマ日本人学校

在外教育施設では、多様な教育課程を編成していく必要がある。パナマ日本人学校での複式学級の授業および特別活動(健康安全・体育的行事)における実践と課題を報告する。

そして、国内外の学校等におけるグローバル教育のさらなる充実のために、パナマ共和国(中南米)の特色を生かした教育活動の実践を紹介する。

- (1) 体育・保健体育での複式授業の取組
- (2) 健康安全・体育的行事の取組
- (3) 現地校との交流

在外教育施設では、教員は様々な環境下で、日々教育活動にあたっている。学校の創設から現在にいたるまで、多くの人々の思いが今日まで受け継がれている。日本らしさや現地の特色を生かそうと試行錯誤を重ねてきた歴史と伝統の蓄積を感じ取りながら、昨今の教育事情を踏まえたうえで、学習指導・学校行事ともに、その目の前にいる子供たちのために指導にあたっている。その姿勢が、在外教育施設で働く教員にとって最も大切である。そのように感じた3年間だった。(発表原稿より一部抜粋)



V 教員に求められる力 (研究紀要論文から)

◇ 在外教育施設での経験を通して～東京都の教職員に求められる4つの力～

渋谷区立常磐松小学校 日浦 恵子 先生 リオデジャネイロ日本人学校

「東京都教員人材育成基本方針」に掲げた教員に求められる基本的な4つの力を、在外教育施設での経験を通してどのように生かすことができたのか、そして今後東京都の教職員としてどのように還元できるかについて報告する。

3年間の経験を経て「派遣されることはゴールではなく教員としての通過点のひとつである。」ことを改めて感じている。今後は自分が経験したことを踏まえ、母語を身に付ける重要性を伝える教育相談やの実施や日本人学校を目指す東京都の教職員への力となれるよう日々前向きに職務を遂行したい。(紀要原稿より一部抜粋)

VI 学校におけるグローバル人材の育成 (都海研公開授業ならびに協議会から)

◇ 講師 東京学芸大学 教育学部教授 川崎 誠司 先生

単元名: 「ごみ減らす大作戦 ～そろそろ未来を考えよう!～ごみを減らし、人も生き物も住みやすい世界を」

探究課題: **身近な自然環境と、今と未来のために考える世界を意識した環境問題**

小平市立小平第五小学校 主幹教諭 堀 裕樹 先生

東京グローバル人材育成指針(令和4年3月 東京都教育委員会)には育成すべき資質・能力を4つの TARGET としてまとめている。そこにはグローバル人材育成について、「各校の取組を4つの TARGET と関連付け、学校の教育課程に反映させ、その際設定した目標を達成するために、カリキュラム・マネジメントを行い取り組んでいく」と述べられている。

本校では、校内研究「SEKAI とのつながりを通して、未来に向かって動き出す子供たち」として取り組んでいる。

※子供たちを取り巻く人、もの、ことを SEKAI とした。

その SEKAI が学年に応じてグローバルな世界とのつながりを強めていき、持続可能な社会の実現に向けた諸課題を自分のこととして考えることができるように段階的に指導していく。

(学習指導案より一部抜粋)



<連絡先>

団体名		東京都海外子女教育・グローバル教育研究会
代表者	所属	大田区立多摩川小学校
	職氏名	校長 福地 伸
	連絡先	03-3759-8331
事務局	所属	町田市立鶴川第三小学校
	職氏名	主幹教諭 野上 光一
	連絡先	042-735-2127